

令和5年9月4日  
教育振興部教育施策課

(仮称)練馬区幼保小連携推進方針〔素案〕に寄せられた意見と区の考え方について

## 1 意見の受付状況

### (1) 意見募集期間

令和5年6月21日(水)から令和5年7月14日(金)まで

### (2) 周知方法

ア ねりま区報(6月21日号)への掲載

イ 区ホームページへの掲載

ウ 区民情報ひろば、区民事務所(練馬を除く)、図書館、教育施策課での閲覧

### (3) 意見件数

14件(6名)

## 2 寄せられた意見の内訳

項目	件数
I (仮称)練馬区幼保小連携推進方針の基本的な考え方	2
II 幼保小連携・接続が求められる背景	3
IV 区の幼保小連携・接続の推進に係る取組	1
V 実態調査の実施	1
VI 今後の取組	1
幼保小連携の全体イメージ	1
素案全体について	3
その他	2
合計	14

### 3 寄せられた意見に対する対応状況

区分	内 容	件数
◎	意見の趣旨を踏まえ計画に反映するもの	1
○	素案に趣旨を掲載しているもの	4
□	素案に記載はないが他の事業等で既に実施しているもの	5
△	事業実施等の際に検討するもの	3
※	趣旨を反映できないもの	1
合 計		14

4 区民からの意見と区の考え方

No.	意見の概要	区の考え方	対応区分
<b>I (仮称) 練馬区幼保小連携推進方針の基本的な考え方</b>			
1	幼保一元化に関する取組は、本推進方針の範囲外であることを前提事項として明確に記載したほうが、より区民の理解が得やすいのではないかと。	本方針は、幼児教育・保育と小学校教育のより円滑な接続が実践できるよう策定するものです。 幼児教育施設の施設類型を問わず、幼保小の連携・協働による架け橋期の教育の充実を推進していきます。 なお、区では独自の幼保一元化施設として、年間を通して9時間から11時間の預かり保育や3歳児未満児の保育を実施している私立幼稚園を「練馬こども園」として認定しています。	□
2	こども家庭庁の設立やその方針に関しても記載すべきではないかと。もしくは、区独自に本推進方針を進めていくことを補足として明記したほうが、より区民の支持を得やすいのではないかと。	本方針は、文部科学省の「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」の審議まとめによる提言とともに、これまでの区の幼保小連携に係る様々な取組の実績および「令和4年度練馬区幼保小連携に関する実態調査」の結果を踏まえ、幼保小の関係者の連携・協働のもと、より円滑な接続が実践できるよう策定するものです。 区では、平成24年に保育所の所管が教育委員会となったことを契機に、幼稚園・保育所・小学校が教育・保育の充実に向けて連携して取り組むため、練馬区幼保小連携推進協議会を設置しています。	※
<b>II 幼保小連携・接続が求められる背景</b>			
3	どんな問題がどれだけ発生しているのかわからない。発生しているのなら、当事者（子ども、教師、親）の気持ちはどうなのかわからない。そのため、取り組みが妥当か決められないのではないかと。	「令和4年度練馬区幼保小連携に関する実態調査」では、幼保小連携の取組が重要であると回答した園長や校長等の割合が約95%でした。また、『第2期練馬区子ども・子育て支援事業計画』の中間見直しの検討に向けたニーズ調査では、子育てに関して孤立感を感じるがあると回答した未就学児の保護者の割合は約35%でした。 引き続き、幼児教育・保育と小学校教育の関係者が連携・協働のもと、カリキュラムや教育方法の充実・改善にあたること、そして家庭の教育力の向上や保護者の子育てに関する悩みの軽減につながる取組を推進していきます。	○

No.	意見の概要	区の考え方	対応区分
4	<p>「遊びを通して学ぶ」とあるが、幼稚園、保育園の前提を補記したほうがより区民の理解を得やすいのではないか。</p> <p>幼稚園と保育園では位置付けが全く異なること、政府の方針や世の中の動向、保護者の意識を鑑みても、保育園に注目が集まっているという認識のもと、あるべき姿を追求するのか、今後の課題として併行して取り組んでいくのかなど、計画を定期的に見直しするだけではなく、将来のビジョンも必要ではないか。</p>	<p>本方針は、幼児教育・保育と小学校教育のより円滑な接続が実践できるよう策定するものです。</p> <p>平成29年に同時改訂・改定された幼稚園教育要領と保育所保育指針により、保育所における3歳以上の保育に関する教育的側面については幼稚園との整合性が図られています。幼児教育施設の施設類型を問わず、幼保小の連携・協働による架け橋期の教育の充実を推進していきます。</p>	□
5	<p>「学習や生活に支障をきたす」「段差」とあるが、具体的な例示やデータを挙げたほうがより区民の理解を得やすいのではないか。</p>	<p>小学校の入学は、子どもにとって初めての進学であり、学習・生活環境の変化に戸惑いや不安を感じ、この時期につまづいてしまうことは、その後の学校生活や成長に大きな負の影響を与えかねません。不登校の要因の一つになる可能性も懸念されます。区内の不登校の状況においても、小学校1年生における不登校の児童数は増加傾向にあります。</p> <p>ご意見を踏まえ、不登校に係る記載を一部追記しました。</p>	◎
<b>IV 区の幼保小連携・接続の推進に係る取組</b>			
6	<p>教員向けの研修会のタイトルを変えて、保護者向けにも開催してはどうか。</p> <p>政府の方針や世の中の動向、保護者の意識を鑑みても、自分の時間を持ちたいが故の預け先になっている傾向を感じる。保護者が子育てに向き合うため、教員への理解のためにも研修会の内容は効果的と考えられる。</p>	<p>区では、子育てに係る保護者向け講演会や学習講座を実施しています。また、小学校への入学を控えた子どもや保護者の不安の軽減につなげることを目的として、小学校入学前の毎年度9月に、保護者向けリーフレット「もうすぐ1年生～親子で一緒に入学準備～」を配布しています。</p> <p>小学校入学に向けて、子どもの「人とかかわる力」や「自分で考え行動する力」を育むための家庭での取組について、保護者向けの講演会等の開催を検討します。</p>	△

No.	意見の概要	区の考え方	対応区分
<b>V 実態調査の実施</b>			
7	<p>様々な交流会が新型コロナウイルス感染症への懸念により見送られているが、ICTを活用し機会損失を無くすべきではないか。別枠で取り組むべき大きな課題と考えられる。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度および3年度は、対面で行う直接交流は一時的に減少しましたが、児童から園児へ手紙を送ったり、ICTを活用したWeb会議システム等による交流を実施しました。</p> <p>今後も必要に応じて、ICTやオンライン等の効果的な活用を促進していきます。</p>	○
<b>VI 今後の取組</b>			
8	<p>私立保育園は季節のイベントが優れており、公的機関等との連携の取り組みは区立保育園が優れており、格差が大きいと感じる。公私それぞれ良い面があり、優れていることを共有するため、保育園と小学校の連携だけでなく、近隣保育園間での交流を推奨すべきだと感じる。</p>	<p>区内の保育施設では、私立区立に関わらず地域との連携や交流の充実により、開かれた園づくりを進めています。</p> <p>施設間の交流や連携の取組としては、「保育でつながろう」と称し、認可保育園や小規模保育、保育ママ、幼稚園などの子育て施設が、職員レベルでの日常的な連携構築を行っています。</p> <p>コロナ禍で連携ができない時期がありましたが、今後、連携の充実に取り組めます。</p>	○
<b>幼保小連携の全体イメージ</b>			
9	<p>目的が感じられないイメージ図であると感じる。折角の文章記載の内容が上手く表現されておらず、下段の枠はとりあえず置いたように感じる。もう少し大枠から俯瞰しイメージに落とすことで区民の理解が進むのではないか。</p>	<p>子どもたちが健やかに成長していく過程で、基本的な生活習慣や人間性・社会性・考え方などは家庭生活の中で育まれます。</p> <p>本方針では、子どもたちの健全育成を進めるために、幼稚園・保育所・小学校のみならず地域社会や関係機関と協力しながら、家庭の教育力の向上や保護者の子育てに関する悩みの軽減など、家庭教育支援の充実を掲げています。</p> <p>子どもや家庭と関わる多種多様な存在を表す意図を持って、「幼保小連携の全体イメージ」として掲示しています。</p>	○

No.	意見の概要	区の考え方	対応区分
素案全体について			
10	<p>幼保連携の必要性は理解する。しかし、今の余裕の無い保育士や教員数で十分な連携が保てるもしくは進展させることができるか疑問に感じる。</p> <p>土曜日の保育園の様子を見ると、区立保育園でも1歳～6歳の園児10人～12人程度に大人は2人しかおらず、子供への声かけや関わりは少なく、自由という名の放置である。安全な保育を行うので手一杯だと感じる。</p> <p>区立でさえそのような状態で、5歳から小学校へのスムーズな入学にむけた取組みをする余裕があるのか。</p> <p>現状の取組み内容のレベル感、取組みしている園の少なさを踏まえれば、そう感じざるを得ない。</p> <p>保育士や先生方の待遇改善と、人数をより確保し、一人一人の児童へより決め細やかな指導をできる環境づくりを強く求める。</p>	<p>区では、私立区立に関わらず、認可保育園に対し国の職員配置基準に上乘せして保育士や看護師等を加配し保育環境の充実を図っています。また、私立保育園等に対しキャリアアップ補助金や職員宿舍借上げ支援事業補助金等を活用した保育士等への処遇改善に取り組んでいます。国の対象となっていない看護師や栄養士等の専門職、区が加配している保育士等に対しては、区独自に給与面の処遇改善を行っています。</p> <p>現在、保育士の業務負担を軽減するため、保育所のICT化を進めています。事務の負担軽減により子どもや保護者と向き合う時間が増えています。区内の認可園や地域型保育、認証保育所の約9割でICTの導入が完了しており、実施していない施設に対し、導入の働きかけを積極的に行っています。</p> <p>教員の働き方改革については、国や東京都の取組に加え、区独自の働き方改革推進プランを策定し、教員業務をサポートする人材の配置、学校徴収金システムの導入、出退勤管理システムの導入による在校時間の可視化など、様々な取組を進めてきました。また、学校の実情に応じた学校行事の削減・縮減や休務日の設定、校務の効率化などを促してきました。</p> <p>コロナ禍を一つの契機と捉え、これまでの習慣や慣例にとらわれない学校運営の見直しを行うとともに、引き続き、多面的な支援や方策を通じて教員の働き方改革を推進していきます。</p>	□

No.	意見の概要	区の考え方	対応区分
11	<p>私立園は、地域の保育園との交流がとでも少なく、特に5歳児交流や園交流のような複数園交流も全くないことに不安を覚えている。小学校へ行く回数もとでも少なく、スタートも遅いことに驚いた。保育園、幼稚園、小学校の先生の忙しさも承知しているが、春の早い時期からの取り組みをお願いする。</p> <p>小学校は閉ざされた空間で、防犯面においても公開することは難しいと思うが、運動会が終わる頃に年長児向けの保護者会や学校公開などの情報提供をお願いする。</p>	<p>園児と児童の交流については、私立区立に関わらず、小学校と近隣の幼稚園・保育所が調整をしながら実施しています。近年は新型コロナウイルス感染症の影響拡大に伴い、こうした交流活動が難しい面もありました。</p> <p>今後も、適切な時期に地域の各園の交流や園児と児童の交流活動が深まるよう、働きかけていきます。</p> <p>小学校では、運動会や学芸会などの行事や土曜授業の様子を地域の方もご覧いただくことができます。学校公開や保護者会などの情報については、各学校のホームページや学校だよりなどで周知しています。</p> <p>これから入学を予定されている方が必要とする情報についても、適切なタイミングで提供できるよう努めていきます。</p>	△
12	<p>「教育・保育の環境をこれまで以上に充実させていくとともに、家庭や地域の人々、行政が十分に協力・連携して、社会全体で子どもと子育て家庭を支える仕組みを作っていく」とあるが、保護者が置かれている環境が考慮されていないのではないか。無作為抽出の家庭へのアンケート結果のデータなども活用し、基本方針を策定しながらも柔軟な取り組みを考えていくべきではないか。または支障のある家庭への支援に重きを置くといった取り組み方も重要だと考える。これらの観点や意思が伝わってこないと感じる。</p>	<p>保護者や家庭のニーズについては、「子ども・子育て支援事業計画」の策定にあたって、無作為に抽出した就学前児童家庭および小学校児童家庭の各3,000人に対し、ニーズ調査を実施するなどにより、定期的に把握しています。</p> <p>本方針は、「練馬区教育・子育て大綱」に基づき策定するものです。大綱では、教育分野、子育て分野それぞれの重点施策を掲げています。</p> <p>子育て分野においては、「支援が必要な子どもたちと家庭への取組の充実」を重点施策の一つとして定めています。</p>	□

No.	意見の概要	区の考え方	対応区分
その他			
13	<p>学びが義務教育の外に向いているのが世の中の動向と捉え、これを良しとするのか、義務教育に関心を引き戻すのか、教育委員会として立ち位置を明確にしてほしい。</p>	<p>区では、「練馬区教育・子育て大綱」に基づき、「学力・体力・豊かな心が調和した学びの充実」を重点施策の一つに定め、基礎的・基本的な知識・技能や、考える力、判断する力、表現する力など、義務教育段階において必要な力を確実に身に付けられるよう教育施策を展開しています。</p> <p>また、保護者や地域の方に区の教育に関する取組の理解を深めていただくため、「教育だより」の発行、学校公開、「練馬区教育実践発表会」などの情報発信に努めています。</p>	□
14	<p>現在、小学校3校の5年生に田植え体験とその際に行われてきた伝統的な儀式を伝える活動をしている。学校の地域連携の取り組みを行っているが、こちらから連絡しないと今年度活動するか分からず、突然今年度はできませんと言われて、長年行ってきた活動が出来なくなっている。活動のための準備があるので、新年度が始まってから活動について決めるのではなく、継続して実施してもらいたい。校内の人事が優先されており、地域活用方針などが伝えられていないと感じる。地域連携のあり方について考えを教えてください。</p>	<p>区立学校では、地域社会に信頼される開かれた学校づくりを目指し、地域連携の充実に向けた地域人材の活用を推進しています。</p> <p>各学校においては、学校の実態に応じて、地域人材を活用した教育活動を教育課程に位置付け、地域連携の充実に取り組んでいます。今後も、地域と連携した教育活動が充実するよう働きかけていきます。</p>	△